

ICTを活用した教育体制構築に関する実証事業 報告書

1. 学校名	
学校名 広州日本人学校	
2. テーマ	
「自ら考え、仲間と学ぶ授業づくり ～授業支援アプリ「ロイロノート・スクール」を活用した授業の構築～」	
3. 取組の概要	
<p>(※報告書の内容を要約し、200～400字程度で記載してください。)</p> <p>コロナ禍において、遠隔での学習支援は必須である。学校に登校できない児童生徒をどう支援していくか、また、ICT(授業支援アプリ「ロイロノート・スクール」)を活用することにより、「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)へとつながる授業がどう行うかことができるかを様々な形で検証します。</p>	
4. 取組の背景・目的	
<p>(※非常時でも途切れない「学びの保障」の在り方と関連づけて記述してください。)</p> <p>今年2月から中国国内でもコロナウイルス感染症拡大による影響のため、学校休校を余儀なくされた。休校期間中の学習支援をどのように行っていくかを模索していく中で、昨年度12月に導入した授業支援アプリ「ロイロノート・スクール」を活用することを決定し、定期的な課題配信、児童生徒からの課題返却、返却された課題の採点や添削などを継続して実施した。</p> <p>各学年、各教科の学習内容を踏まえた課題配信や添削返却は、コロナ禍にあってもタイムリー且つスピーディに実施できたことで、児童生徒の学習へのモチベーションを維持することができた。また、課題の配信のみならず、授業における様々な動画(理科の実験動画、体育動画、音楽動画など)を配信し、それに対して児童生徒が実際に体育や音楽などの実技動画を返信することもでき、楽しく学習に取り組むことができた。</p> <p>現在でも、日本にいる本校児童生徒が学校に通えずに自宅で学習している現状が続いている。その児童生徒に対してどのように継続的に授業配信と学習支援を行うとともに、本校に通う児童生徒においては、授業における本授業支援アプリを活用し、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業を模索していく。</p> <p>実際の授業においては、児童(生徒)同士の意見や考えなどの相互交流や新たな気づきによる学びの深まりを支援するため、様々な「シンキングツール」を駆使する授業を展開していきたい。</p> <p>また、本校が目指す「国際社会に生きる児童生徒の育成」にむけ、地域(中国、広州市)内の中国人公立学校との遠隔での交流も計画したい。コロナ禍にあり、これまで直接的に会話や対話を通して交流してきたものを、ICTを効果的に活用することによる、教育の質の向上を図り学校教育目標の具現化を実現するものである。</p>	
5. 取組の実施日程	
日程	取組内容
7月	事業申請後、第1回研究推進会議(仮称)の開催(事業説明及び研究の共通確認)
8月	(上旬)事業確定後、研究の具体的実践の確定 (中旬)2学期授業開始により、具体的実践スタート
9月	授業実践(小中学部及び教科) 授業支援アプリ「ロイロノート・スクール」の活用 (中旬)研究授業① 授業後の授業研究会により具体的効果の検証
10月	授業実践(小中学部及び教科) 授業支援アプリ「ロイロノート・スクール」の活用

	第2回研究推進会議(事業の進捗状況の確認)
11月	小学部:中国小学校との交流に向けた取組準備(児童のプレゼン力向上のための取組) (下旬) 研究授業② 授業後の授業研究会により具体的効果の検証 (下旬)小学部:広州在の中国小学校との交流(総合的な学習の時間)
12月	中学部:深圳日本人学校との交流に向けた取組準備(生徒のプレゼン力向上のための取組) 第3回研究推進会議(事業の進捗状況の確認)
1月	(中旬)中学部:深圳日本人学校との交流 (中旬)研究授業③ 授業後の授業研究会により具体的効果の検証
2月	(上旬)実績報告書のまとめ (中下旬)実績報告書の提出

6. 具体的な取組内容 (※詳細に記載し、付属資料があれば添付してください。)

- 取り組み1 ICT機器の活用で主体的深い学びの具現化を図る
 - 取り組み2 ICT機器×シンキングツールで思考力の育成を図る
 - 取り組み3 ICT機器の活用を切り口として、現地校との国際交流を図る
- ※詳細は付属資料をお読みください。

7. 取組の成果

(※どのような課題をどのように解決したかや、生徒・児童への効果等について詳細に記載し、成果物があれば添付してください。また成果がどのような観点で他の学校の参考になるかも記載してください。)

成果

- ・ロイロノート・スクールを活用し非常時に子どもたちの学力保障が行えた。
- ・ロイロノートを一貫して用いることで、家と学校、学年のつなぐことができ、今後も発展性が望めたこと。
- ・地元ローカル校とのICTを切り口とした交流が実現した。ズームや中国のアプリの活用により、今後も継続やその発展が期待できる。また、そのノウハウは同じ中国の在外教育機関の参考にもなる。
- ・SDGs世界大会に参加し、ロイロノートを通して世界や日本の学校とも交流ができた。今後も世界中の学校との交流を視野に入れた計画の作成が望める。
- ・ICT機器を通して子どもたちの学習意欲が増し、課題へ取り組む主体性のある姿が多くなった。
- ・支援が必要な子どもは、ICT機器の活用も効果的であること。
- ・ロイロノートのシンキングツールを子どもたちに頻繁に使用させた。【比較、関連、拡散、焦点化、構造化、分類】などに特化したシンキングツールを子どもたちがどれほど活用できているのかを見とることで思考力育成の進捗状況の把握ができた。思考力育成の学習履歴(シンキングツールの活用履歴)をロイロノートにて記録できた。これらのスタディログにより、思考力育成の分析が行えたことは成果であった。
- ・業務と授業の効率化
- ・業務と授業の効率化 (職員会議の提案資料など)

- ・学校と家庭をつなぐことが頻繁にそして瞬時に行える。
- ・紙媒体の使用減少。学校の経費削減につながった。
- ・児童生徒と教員のタブレット端末の操作技術の向上
- ・情報活用能力の向上

※詳細は付属資料をお読みください。

8. 今後の課題・展望

(※次年度以降への継続性及び発展性に言及してください。)

- ・ 指導と評価の一体の充実
ICT活用により「主体的・対話的で深い学び」をどう授業で実現するために結果を客観的に見とる指標が必要である。
- ・ 学期末、学年末における指導計画の見直し、修正。
- ・ オンライン交流時の計画の内容については、今年は窓口があったが次年度は各学年間同士で打ち合わせをする。
- ・ ICT機器の基本操作やシンキングツールについて教職員の研修の充実。
- ・ 情報教育の系統立てた指導計画の作成。
- ・ ICT機器はあくまで手段であり、使うことが目的にならないように活用の意図を明確に持つ。
- ・ 無線LANやICT環境整備の充実。
- ・ 機器管理の仕方。
- ・ 情報モラルの充実。
- ・ 家庭のICT環境の調査をその対応（対応は上記）

※詳細は付属資料をお読みください。次年度への発展性や継続性を記載しています。

9. 所感

中国で新型コロナウイルスが蔓延し、休校により教育活動が停滞した。コロナ禍において、児童生徒の学力の保障をどうしていくのか、全職員で必死に考え、ICT機器の利活用をするに至った。タブレット端末やロイノートを手探りで使っていく過程で情報機器の活用は、従来教室で行われてきた授業の形態やその内容を大きく変える可能性を秘めていることを考えさせられた。文科省補助事業の「コロナ禍におけるICTを活用した教育体制構築に関する実証事業」に参加できたことは、本校のICT環境を改善し、授業を変え、学校、地域、保護者を繋げた。現在、日本でもICT機器の整備が行われてきている中、学校単位でICT機器についての実践を集中して行い、その利便性を活かす土台を築き上げられたことは、本校の財産となった。ICTは学ぶほどに活用の幅が広がる。子どもにとって最大の教育環境は教師であるということを胸に学びを止めず職務に専念していきたい。

※提出いただいた報告書や成果物は、本事業の取組成果として公開する予定です。また、記載いただいた内容は文部科学省や海外子女教育振興財団のその他の資料にも使わせていただく可能性があります。

※記入欄は適宜拡張してください。